



Haram…??

「実は食パンもハラムかもしれない。」

この言葉がこのプロジェクトをやってみたくていうきっかけでした。

みなさんは「Haram (ハラム)」という言葉をご存知でしょうか。アラビア語で非合法・禁忌を意味し、食べ物の場合ムスリム (イスラム教徒) が宗教上の理由で食べられないものを表す言葉です。比較的耳にする機会の多い「Halal (ハラル)」(合法) の対義語にあたります。このハラムで定義されるものは、豚肉、宗教上認められた殺し方をされていない牛肉・鶏肉、アルコールを含む食品です。これらは一見、含まれていないと思われがちな日本で食べる食品にも実は含まれています。例えば、パンの材料となるショートニング、ゼリーなどに使われるゼラチン、コーヒー牛乳などの乳製品に添加剤として使われる乳化剤や、多くの調味料にアルコールが加えられています。しかしながら、これらは、乳化剤、ゲル化剤、増粘剤、動物脂などと食品表示に書かれます。難しい漢字で書かれ、また「豚」「動物性」とははっきり書いていない原材料を見て判断するのは、留学生にとっては難しいことです。

先ほどの言葉を聞き、初めてムスリム留学生が困っている現実に気づきました。それとはほぼ同時期にハラル料理を提供していた学食が工事のために一時閉鎖になることを知りました。留学生が安心して食事ができる場所の情報を提供することができないか、そう思い立ったのがこのプロジェクトの始まりです。

さまざまな人とのつながり

このプロジェクトを実施するために、ムスリムや大学の職員の方、学食の方などさまざまな人とお話しする機会をいただきました。ムスリム留学生からハラムとは何か、食事で困っていることは何かなど日々の生活で感じていることを教えてもらいました。長期休みには、モスクに遊びに行ったり、他大学の

ムスリムと話したりし、さまざまな人から意見を聞くことができました。留学生から見た「日本」は、私が普段考えている「日本」とは違い、とても興味深いものでした。大学内で同じ問題に関心のある日本人の学生や職員の方とも、ムスリム留学生が困っていることとは何か、どうすれば解消できるかなど話し合いました。そして、最も新鮮だったのが、学食の方とお話しする機会をいただいたことです。普段何げなく顔を合わせているのに、会話をする機会は少なかったことに改めて気づき、直接お会いして学食についてお聞きできるのはとても貴重な経験となりました。

このさまざまな方々との会話を通じて感じたのが、「コミュニケーション不足」でした。私が友人から話を聞くまでムスリム留学生の悩みに気がつかなかったのと同様に、宗教が身近ではない多くの日本人はムスリムが何を知りたいのかを汲み取ることは難しいと感じていました。また、母国では「当たり前」のものが伝わらないもどかしさから、伝えることを諦めている留学生が多くいます。この現状を知り、日本人として架け橋になりたい、少しでもお互いが心地良い環境にしたいと思いました。

今後

現在は学食中心にプロジェクトの協力をお願いしていますが、大学周辺の飲食店の方にもお願いしてプロジェクトの範囲を広げていきたいと考えています。

また、ムスリム留学生とミーティングをしているとさまざまな悩みを聞くことができます。漢字が読めないから食品表示が理解できなくて買い物に困っていること、1日に5回しなくてはいけないお祈りの場所がないことなどです。この食品表示のプロジェクトに直接関係ないことでも留学生の悩みに寄り添いながら日本社会との架け橋になるプロジェクトとして続けていけたらいいと思っています。



定期ミーティングでの様子



食材についてのマークの下書き